

感覚をひらく—— 新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業

Opening the Senses—Project to Promote Innovative Art Appreciation Programs

エデュケーショナル・スタディズ 02

Educational Studies 02

京都国立近代美術館4階 コレクション・ギャラリー

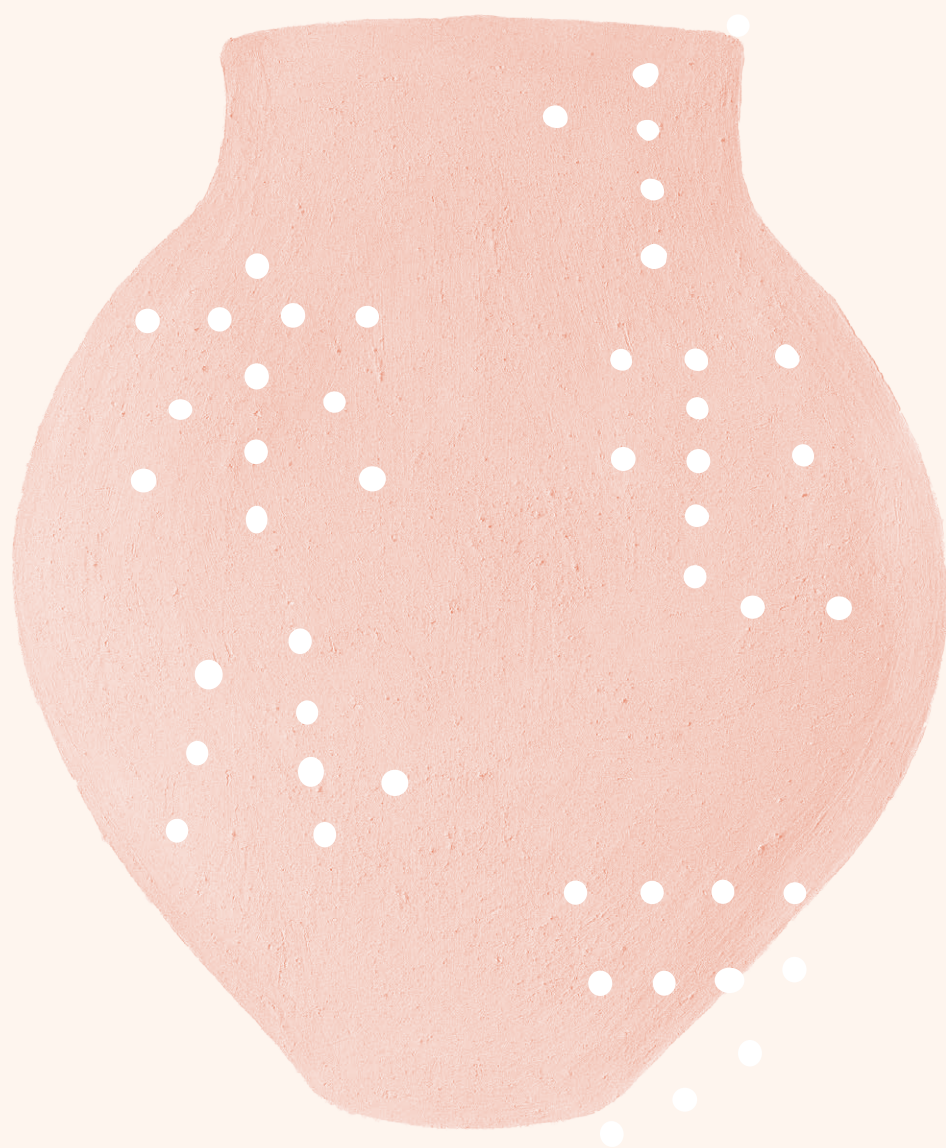
2020年12月24日(木) — 2021年3月7日(日)

休館日：月曜日、年末年始(12月28日～1月5日)、および1月12日(火) ※ただし1月11日(月・祝)は開館

開館時間：9時30分～17時 ※ただし金・土曜日は20時まで開館(入館は閉館の30分前まで)

主催：京都国立近代美術館 特別協力：京都精華大学 伝統産業イノベーションセンター

ツボ  
ノ  
ナカ  
ハ  
ナ  
ン  
ダ  
ロ  
ナ  
？  
中村裕太



Yuta Nakamura

What's in the Vase ?

石黒宗麿（1893-1968）は、1936年に京都市左京区八瀬に「八瀬陶窯」を築窯し、晩年までこの地を拠点に陶器作りを続けてきました。石黒は、1955年に鉄釉陶器の技法による重要無形文化財保持者（人間国宝）として認定されたことを機に、中国や朝鮮の古陶磁を逐った近代的な個人作家として紹介されてきました。ところが、石黒の手によってこの土地に捨て去られた陶片からは、陶器作りに苦心する新たな一面を見出すことができます。

京都国立近代美術館では、見える・見えないに関わらず誰もが楽しめる作品鑑賞のあり方を探る「感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」を行っています。2020年度より、

作家（Artist）、視覚障害のある方（Blind）、学芸員（Curator）がそれぞれの専門性や感性を生かし、さまざまな感覚をつかう鑑賞方法を創造する「ABCプロジェクト」を立ち上げました。

本プロジェクトは、陶片を発掘することから始まり、中村裕太は陶片の研究とその制作、安原理恵は陶片を触察し言葉にすることで、石黒の陶器作りを解きほぐしてきました。さらに、それらの考察をもとに、学芸員は当館のコレクションとのつながりを再構築してきました。本展の会場では、来場者が手や耳の感覚を研ぎ澄ませ、壺のなかに入ったひとつひとつの陶片に触れる体験をとおして、当館所蔵の石黒宗麿《壺「晩秋」》の新たな鑑賞方法を探っていきます。



〈八瀬陶窯の陶片を触察する安原と中村〉2020年 撮影 | 表恒匡

石黒宗麿《壺「晩秋」》1955年頃

〈八瀬陶窯の柿の木と石黒宗麿〉1956年頃、射水市新湊博物館提供

陶片から  
なにがみえるかな？

### ABCコレクション・データベース Vol.1 石黒宗麿陶片集

八瀬陶窯から発掘された26個の陶片をABCの視点から紐解いた陶片集。

どんなコレクションと  
つながるかな？

<https://www.momak.go.jp/senses/abc/ishiguro/>



#### 観覧料

一般430円（220円）

大学生130円（70円）

\*（ ）内は20名以上の団体料金、夜間開館時の夜間割引料金

\*高校生以下、18歳未満および65歳以上、心身に障がいのある方とその付添者1名は無料（入館の際に証明できるものをご提示ください）

#### お問い合わせ

京都国立近代美術館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町

TEL: 075-761-4111 FAX: 075-771-5792

<https://www.momak.go.jp/senses>

令和2年度 文化庁 地域と共創した  
博物館創造活動支援事業



〈八瀬陶窯から発掘された陶片〉撮影 | 表恒匡



#### 中村裕太 Yuta Nakamura

1983年東京生まれ、京都在住。京都精華大学芸術学部特任講師。2011年京都精華大学芸術研究科博士後期課程修了。博士(芸術)。〈民俗と建築にまつわる工芸〉という視点から陶磁器、タイルなどの学術研究と作品制作を行なう。近年の展示に「第8回アジア・パシフィック・トリエンナーレ」（クイーンズランド・アートギャラリー、2015年）、「第20回シドニー・ビエンナーレ」（キャレッジワークス、2016年）、「あいちトリエンナーレ」（愛知県美術館、2016年）、「MAMリサーチ007：走泥社—現代陶芸のはじまりに」（森美術館、2019年）、「表現の生態系：世界との関係をつくりかえる」（アーツ前橋、2019年）。著書に『アウト・オブ・民藝』（共著、誠光社、2019年）。

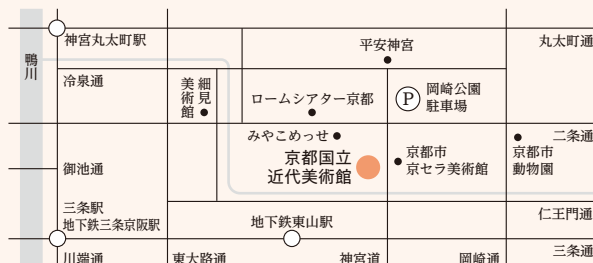
#### 交通案内

●京都市バス「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ、「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車徒歩約5分、「東山二条・岡崎公園口」下車徒歩約10分

●地下鉄東西線「東山駅」下車徒歩約10分

・新型コロナウイルス感染予防のため、開館時間・休館日は変更になる場合がございます。ご来館前に当館ウェブサイトなどで最新情報をご確認ください。

・本展示では一部、手で触れて体験できる展示がございます。



感覚をひらく—— 新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業

Opening the Senses—Project to Promote Innovative Art Appreciation Programs

エデュケーショナル・スタディズ 02

Educational Studies 02

京都国立近代美術館4階 コレクション・ギャラリー

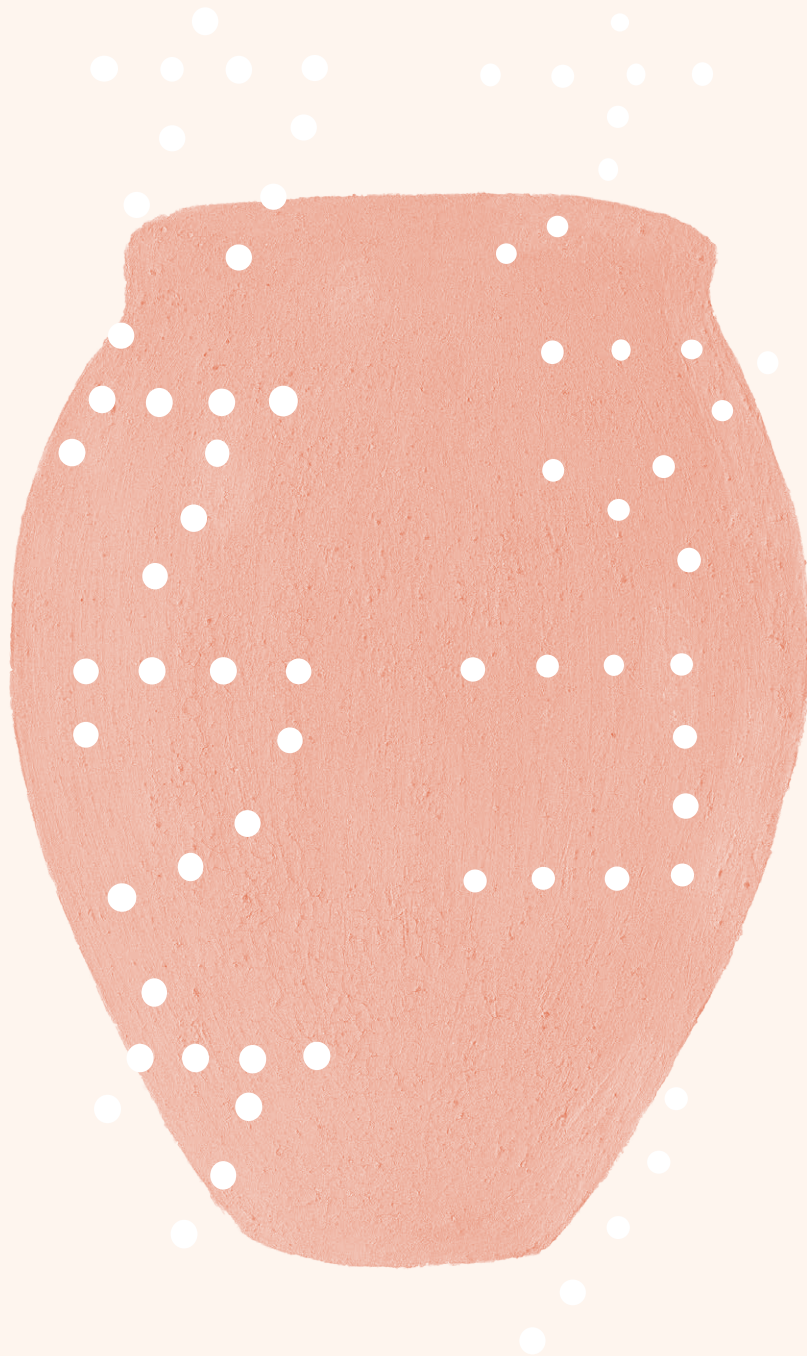
2020年12月24日(木) — 2021年3月7日(日)

休館日：月曜日、年末年始(12月28日～1月5日)、および1月12日(火) ※ただし1月11日(月・祝)は開館

開館時間：9時30分～17時 ※ただし金・土曜日は20時まで開館(入館は閉館の30分前まで)

主催：京都国立近代美術館 特別協力：京都精華大学 伝統産業イノベーションセンター

ツボ  
ノ  
ナカ  
ハ  
ナ  
ン  
ダ  
ロ  
ナ  
？  
中村裕太



Yuta Nakamura

What's in the Vase ?

石黒宗麿（1893-1968）は、1936年に京都市左京区八瀬に「八瀬陶窯」を築窯し、晩年までこの地を拠点に陶器作りを続けてきました。石黒は、1955年に鉄釉陶器の技法による重要無形文化財保持者（人間国宝）として認定されたことを機に、中国や朝鮮の古陶磁を逐った近代的な個人作家として紹介されてきました。ところが、石黒の手によってこの土地に捨て去られた陶片からは、陶器作りに苦心する新たな一面を見出すことができます。

京都国立近代美術館では、見える・見えないに関わらず誰もが楽しめる作品鑑賞のあり方を探る「感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」を行っています。2020年度より、

作家（Artist）、視覚障害のある方（Blind）、学芸員（Curator）がそれぞれの専門性や感性を生かし、さまざまな感覚をつかう鑑賞方法を創造する「ABCプロジェクト」を立ち上げました。

本プロジェクトは、陶片を発掘することから始まり、中村裕太は陶片の研究とその制作、安原理恵は陶片を触察し言葉にすることで、石黒の陶器作りを解きほぐしてきました。さらに、それらの考察をもとに、学芸員は当館のコレクションとのつながりを再構築してきました。本展の会場では、来場者が手や耳の感覚を研ぎ澄ませ、壺のなかに入ったひとつひとつの陶片に触れる体験をとおして、当館所蔵の石黒宗麿《壺「晩秋」》の新たな鑑賞方法を探っていきます。



〈八瀬陶窯の陶片を触察する安原と中村〉2020年 撮影 | 表恒匡



石黒宗麿《壺「晩秋」》1955年頃



〈八瀬陶窯の柿の木と石黒宗麿〉1956年頃、射水市新湊博物館提供

陶片から  
なにがみえるかな？

### ABCコレクション・データベース Vol.1 石黒宗麿陶片集

八瀬陶窯から発掘された26個の陶片をABCの視点から紐解いた陶片集。

どんなコレクションと  
つながるかな？

<https://www.momak.go.jp/senses/abc/ishiguro/>



#### 観覧料

一般430円（220円）

大学生130円（70円）

\*（ ）内は20名以上の団体料金、夜間開館時の夜間割引料金

\*高校生以下、18歳未満および65歳以上、心身に障がいのある方とその付添者1名は無料（入館の際に証明できるものをご提示ください）

#### お問い合わせ

京都国立近代美術館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町

TEL: 075-761-4111 FAX: 075-771-5792

<https://www.momak.go.jp/senses>

令和2年度 文化庁 地域と共創した  
博物館創造活動支援事業



〈八瀬陶窯から発掘された陶片〉撮影 | 表恒匡



#### 中村裕太 Yuta Nakamura

1983年東京生まれ、京都在住。京都精華大学芸術学部特任講師。2011年京都精華大学芸術研究科博士後期課程修了。博士(芸術)。〈民俗と建築にまつわる工芸〉という視点から陶磁器、タイルなどの学術研究と作品制作を行なう。近年の展示に「第8回アジア・パシフィック・トリエンナーレ」(クイーンズランド・アートギャラリー、2015年)、「第20回シドニー・ビエンナーレ」(キャレッジワークス、2016年)、「あいちトリエンナーレ」(愛知県美術館、2016年)、「MAMリサーチ007: 走泥社—現代陶芸のはじまりに」(森美術館、2019年)、「表現の生態系: 世界との関係をつくりかえる」(アーツ前橋、2019年)。著書に『アウト・オブ・民藝』(共著、誠光社、2019年)。

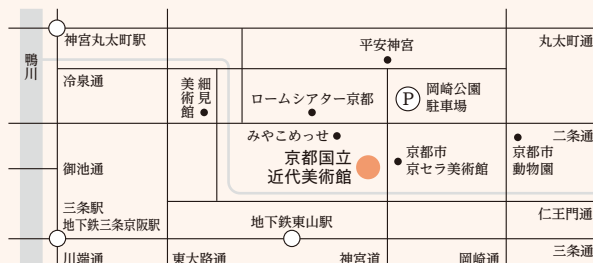
#### 交通案内

●京都市バス「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ、「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車徒歩約5分、「東山二条・岡崎公園口」下車徒歩約10分

●地下鉄東西線「東山駅」下車徒歩約10分

・新型コロナウイルス感染予防のため、開館時間・休館日は変更になる場合がございます。ご来館前に当館ウェブサイトなどで最新情報をご確認ください。

・本展示では一部、手で触れて体験できる展示がございます。



感覚をひらく—— 新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業

Opening the Senses—Project to Promote Innovative Art Appreciation Programs

エデュケーショナル・スタディズ 02

Educational Studies 02

京都国立近代美術館4階 コレクション・ギャラリー

2020年12月24日(木) — 2021年3月7日(日)

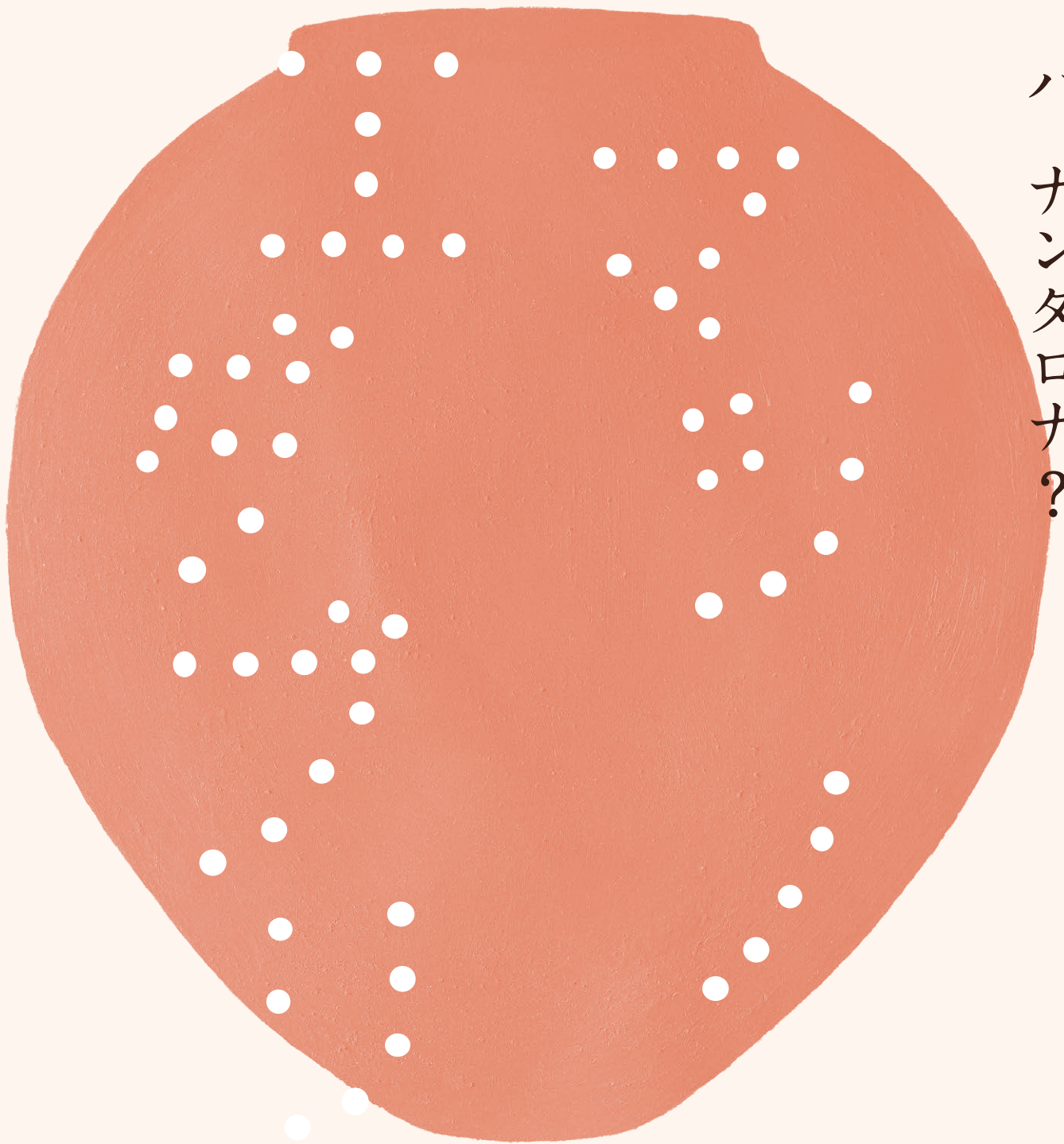
休館日：月曜日、年末年始(12月28日～1月5日)、および1月12日(火) ※ただし1月11日(月・祝)は開館

開館時間：9時30分～17時 ※ただし金・土曜日は20時まで開館(入館は閉館の30分前まで)

主催：京都国立近代美術館 特別協力：京都精華大学 伝統産業イノベーションセンター

ツボ  
ノ  
ナカ  
ハ  
ナ  
ン  
ダ  
ロ  
ナ  
?

中村裕太



Yuta Nakamura

What's in the Vase ?

石黒宗麿（1893-1968）は、1936年に京都市左京区八瀬に「八瀬陶窯」を築窯し、晩年までこの地を拠点に陶器作りを続けてきました。石黒は、1955年に鉄釉陶器の技法による重要無形文化財保持者（人間国宝）として認定されたことを機に、中国や朝鮮の古陶磁を逐った近代的な個人作家として紹介されてきました。ところが、石黒の手によってこの土地に捨て去られた陶片からは、陶器作りに苦心する新たな一面を見出すことができます。

京都国立近代美術館では、見える・見えないに関わらず誰もが楽しめる作品鑑賞のあり方を探る「感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」を行っています。2020年度より、

作家（Artist）、視覚障害のある方（Blind）、学芸員（Curator）がそれぞれの専門性や感性を生かし、さまざまな感覚をつかう鑑賞方法を創造する「ABCプロジェクト」を立ち上げました。

本プロジェクトは、陶片を発掘することから始まり、中村裕太は陶片の研究とその制作、安原理恵は陶片を触察し言葉にすることで、石黒の陶器作りを解きほぐしてきました。さらに、それらの考察をもとに、学芸員は当館のコレクションとのつながりを再構築してきました。本展の会場では、来場者が手や耳の感覚を研ぎ澄ませ、壺のなかに入ったひとつひとつの陶片に触れる体験をとおして、当館所蔵の石黒宗麿《壺「晩秋」》の新たな鑑賞方法を探っていきます。



〈八瀬陶窯の陶片を触察する安原と中村〉2020年 撮影 | 表恒匡



石黒宗麿《壺「晩秋」》1955年頃



〈八瀬陶窯の柿の木と石黒宗麿〉1956年頃、射水市新湊博物館提供

陶片から  
なにがみえるかな？

### ABCコレクション・データベース Vol.1 石黒宗麿陶片集

八瀬陶窯から発掘された26個の陶片をABCの視点から紐解いた陶片集。

どんなコレクションと  
つながるかな？

<https://www.momak.go.jp/senses/abc/ishiguro/>



#### 観覧料

一般430円（220円）

大学生130円（70円）

\*（ ）内は20名以上の団体料金、夜間開館時の夜間割引料金

\*高校生以下、18歳未満および65歳以上、心身に障がいのある方とその付添者1名は無料（入館の際に証明できるものをご提示ください）

#### お問い合わせ

京都国立近代美術館

〒606-8344 京都市左京区岡崎岡勝寺町

TEL: 075-761-4111 FAX: 075-771-5792

<https://www.momak.go.jp/senses>

令和2年度 文化庁 地域と共創した  
博物館創造活動支援事業



〈八瀬陶窯から発掘された陶片〉撮影 | 表恒匡



#### 中村裕太 Yuta Nakamura

1983年東京生まれ、京都在住。京都精華大学芸術学部特任講師。2011年京都精華大学芸術研究科博士後期課程修了。博士(芸術)。〈民俗と建築にまつわる工芸〉という視点から陶磁器、タイルなどの学術研究と作品制作を行なう。近年の展示に「第8回アジア・パシフィック・トリエンナーレ」(クイーンズランド・アートギャラリー、2015年)、「第20回シドニー・ビエンナーレ」(キャレッジワークス、2016年)、「あいちトリエンナーレ」(愛知県美術館、2016年)、「MAMリサーチ007: 走泥社—現代陶芸のはじまりに」(森美術館、2019年)、「表現の生態系: 世界との関係をつくりかえる」(アーツ前橋、2019年)。著書に『アウト・オブ・民藝』(共著、誠光社、2019年)。

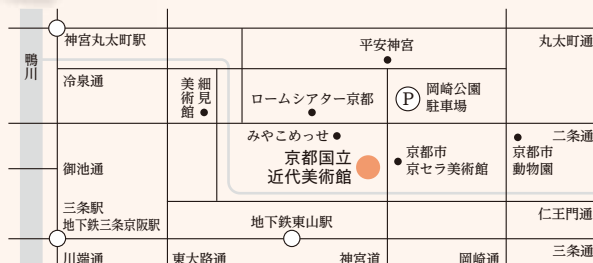
#### 交通案内

●京都市バス「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ、「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車徒歩約5分、「東山二条・岡崎公園口」下車徒歩約10分

●地下鉄東西線「東山駅」下車徒歩約10分

・新型コロナウイルス感染症予防のため、開館時間・休館日は変更になる場合がございます。ご来館前に当館ウェブサイトなどで最新情報をご確認ください。

・本展示では一部、手で触れて体験できる展示がございます。



感覚をひらく—— 新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業

Opening the Senses—Project to Promote Innovative Art Appreciation Programs

エデュケーショナル・スタディズ 02

Educational Studies 02

京都国立近代美術館4階 コレクション・ギャラリー

2020年12月24日(木) — 2021年3月7日(日)

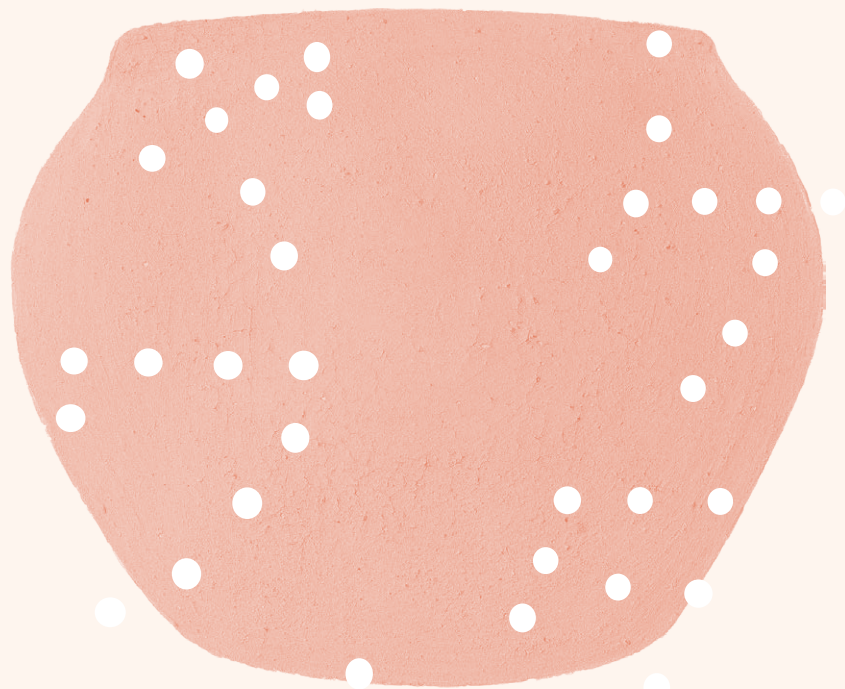
休館日：月曜日、年末年始(12月28日～1月5日)、および1月12日(火) ※ただし1月11日(月・祝)は開館

開館時間：9時30分～17時 ※ただし金・土曜日は20時まで開館(入館は閉館の30分前まで)

主催：京都国立近代美術館 特別協力：京都精華大学 伝統産業イノベーションセンター

ツボ  
ノ  
ナカ  
ハ  
ナ  
ン  
ダ  
ロ  
ナ  
?

中村裕太



Yuta Nakamura

What's in the Vase ?

石黒宗麿（1893-1968）は、1936年に京都市左京区八瀬に「八瀬陶窯」を築窯し、晩年までこの地を拠点に陶器作りを続けてきました。石黒は、1955年に鉄釉陶器の技法による重要無形文化財保持者（人間国宝）として認定されたことを機に、中国や朝鮮の古陶磁を逐った近代的な個人作家として紹介されてきました。ところが、石黒の手によってこの土地に捨て去られた陶片からは、陶器作りに苦心する新たな一面を見出すことができます。

京都国立近代美術館では、見える・見えないに関わらず誰もが楽しめる作品鑑賞のあり方を探る「感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」を行っています。2020年度より、

作家（Artist）、視覚障害のある方（Blind）、学芸員（Curator）がそれぞれの専門性や感性を生かし、さまざまな感覚をつかう鑑賞方法を創造する「ABCプロジェクト」を立ち上げました。

本プロジェクトは、陶片を発掘することから始まり、中村裕太は陶片の研究とその制作、安原理恵は陶片を触察し言葉にすることで、石黒の陶器作りを解きほぐしてきました。さらに、それらの考察をもとに、学芸員は当館のコレクションとのつながりを再構築してきました。本展の会場では、来場者が手や耳の感覚を研ぎ澄ませ、壺のなかに入ったひとつひとつの陶片に触れる体験をとおして、当館所蔵の石黒宗麿《壺「晩秋」》の新たな鑑賞方法を探っていきます。



〈八瀬陶窯の陶片を触察する安原と中村〉2020年 撮影 | 表恒匡

石黒宗麿《壺「晩秋」》1955年頃

〈八瀬陶窯の柿の木と石黒宗麿〉1956年頃、射水市新湊博物館提供

陶片から  
なにがみえるかな？

### ABCコレクション・データベース Vol.1 石黒宗麿陶片集

八瀬陶窯から発掘された26個の陶片をABCの視点から紐解いた陶片集。

どんなコレクションと  
つながるかな？

<https://www.momak.go.jp/senses/abc/ishiguro/>



#### 観覧料

一般430円（220円）

大学生130円（70円）

\*（ ）内は20名以上の団体料金、夜間開館時の夜間割引料金

\*高校生以下、18歳未満および65歳以上、心身に障がいのある方とその付添者1名は無料（入館の際に証明できるものをご提示ください）

#### お問い合わせ

京都国立近代美術館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町

TEL: 075-761-4111 FAX: 075-771-5792

<https://www.momak.go.jp/senses>

令和2年度 文化庁 地域と共働した  
博物館創造活動支援事業



〈八瀬陶窯から発掘された陶片〉撮影 | 表恒匡

#### 中村裕太 Yuta Nakamura

1983年東京生まれ、京都在住。京都精華大学芸術学部特任講師。2011年京都精華大学芸術研究科博士後期課程修了。博士（芸術）。〈民俗と建築にまつわる工芸〉という視点から陶磁器、タイルなどの学術研究と作品制作を行なう。近年の展示に「第8回アジア・パシフィック・トリエンナーレ」（クイーンズランド・アートギャラリー、2015年）、「第20回シドニー・ビエンナーレ」（キャレッジワークス、2016年）、「あいちトリエンナーレ」（愛知県美術館、2016年）、「MAMリサーチ007：走泥社—現代陶芸のはじまりに」（森美術館、2019年）、「表現の生態系：世界との関係をつくりかえる」（アーツ前橋、2019年）。著書に『アウト・オブ・民藝』（共著、誠光社、2019年）。

#### 交通案内

●京都市バス「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ、「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車徒歩約5分、「東山二条・岡崎公園口」下車徒歩約10分

●地下鉄東西線「東山駅」下車徒歩約10分

・新型コロナウイルス感染症予防のため、開館時間・休館日は変更になる場合がございます。ご来館前に当館ウェブサイトなどで最新情報をご確認ください。

・本展示では一部、手で触れて体験できる展示がございます。

